

## 生命科学研究科

I	教育の水準	.....	教育 24-2
II	質の向上度	.....	教育 24-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 授業の英語化率等に関する国際教育の目標を設定しているほか、英語での教育の実施を担う国際教育委員会を平成25年度に設置している。
- 平成22年度及び平成27年度に英語教育に専念する外国人教員（教授、特定准教授各1名）を採用するとともに、教育の全体を総括する教育専任教授を置いている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成21年度から留学生の獲得のため、英語のみで修士・博士の学位が取得可能なGlobal Frontier in Life Scienceコースを開設し、平成23年10月から受入を開始している。留学生の入学者数についてコース開設前と開設後と比較すると、年度平均で3.3名から14.8名となっている。
- 国立台湾大学（台湾）とカリフォルニア大学サンディエゴ校（米国）との間でインターネットを利用した遠隔講義を4科目開講している。

以上の状況等及び生命科学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 修了時のアンケート結果では、研究科の教育全体についての肯定的な回答は第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の平均で、修士課程は78%、博士後期課程は72%となっている。
- 国際性を涵養するための取組として、年に2度、研究科が費用を負担してTOEFL-ITPの受験機会を設けており、受験者の平均点は500点を超えている。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 就職担当の教授を 1 名置き就職説明会等の就職支援を行うことにより、修士課程修了生のうち就職希望者のほぼ全員が就職している。
- 平成 27 年度に実施した修了生を採用した企業に対するアンケートでは、5 段階評価による基礎知識、教養、実行力、協調性、コミュニケーション力、国際性、企画力、たくましさ、リーダーシップの総合評価の平均は 4.1 となっている。

以上の状況等及び生命科学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 21 年度から留学生の受入促進のため、英語のみで修士、博士の学位が取得可能な Global Frontier in Life Science コースを開設し、平成 23 年 10 月から受入を開始している。留学生の入学者数についてコース開設前と平成 23 年度から平成 27 年度を比較すると、年度平均 3.3 名から年度平均 14.8 名となっている。
- 国立台湾大学の医学研究科、生命科学研究科、農学研究科の 3 部局及びモンペリエ大学（フランス）との間で学生相互派遣の部局間学生交流協定（MOU）を締結している。
- 平成 24 年度に講義科目の全面的な見直しを行い、平成 27 年度にカリキュラムマップを作成するとともに、修士課程では幅広く体系的に生命科学諸分野の基礎を学ぶため、基幹となる科目を 1 単位科目とし、複数の基幹科目を履修できるようにしている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第 2 期中期目標期間の学生の受賞状況について、井上科学振興財団井上研究奨励賞等、59 件を受賞している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。